



2025 冬

金沢市立病院 地域連携室通信 スクラム

Vol.77

《 呼吸器内科のご紹介 》

呼吸器内科 科長 古荘 志保

呼吸器内科では、市川先生、黒川先生、立村先生と古荘の4人体制で診療を行っています。肺癌をはじめとする病変に対して気管支鏡・局所麻酔下胸腔鏡検査、間質性肺炎・慢性咳嗽などでは画像診断や精密な肺機能検査などにより、診断精度向上と一人一人の患者さんに適した治療に努めております。睡眠診療については中積先生の週1回の睡眠外来と、終夜睡眠ポリソムノグラフィの入院検査体制を維持しています。



さて、冬の呼吸器感染症の季節を迎え、COVID-19が主に流行していた昨シーズンまでと打って変わり、今年度はインフルエンザやマイコプラズマなど、数多くの感染症が流行しています。当院ではCOVID-19やインフルエンザについて、高齢・基礎疾患のある患者さんの入院での治療を継続しております。マイコプラズマ感染症は、若い患者さんでも重症化することがあり、当院では核酸検査による診断とマクロライド耐性遺伝子検出が治療に役立っています。

さまざまな呼吸器感染症の罹患後に、咳が長引く患者さんも多いようです。私は大学病院時代には気管支喘息や咳の研究と診療に従事しており、これまで数多くの症例に向き合ってきた経験を生かしながら日々の診療にあたっております。先ごろ、印象深い20歳代の咳の患者さんを診察しました。3か月以上続く乾性咳嗽に苦しみ、経過中に咳が原因で肋骨骨折を起こし、休職するほどでした。複数の医療機関で治療を受けるも改善せず、当科初診時には待合から診察室の中まで響き、他の医師も驚くほどの激しい咳。呼気NO検査、気道可逆性試験やCTなど行うも診断が得られず、標準的な咳や喘息の治療、全身性ステロイドも奏功しませんでした。

その後、喀痰中好酸球の増加、アレルギー素因の存在、そして気道過敏性の高度亢進が決め手となり、咳喘息と診断。根気強く治療を続けた結果、2か月でようやく仕事への影響もなくなるまで咳が改善しました。当科では、咳喘息や気管支喘息の良好なコントロールを目指し、院内外の薬剤師

と協力した吸入指導を行い、また重症例に対する生物学的製剤の導入例も増えてきています。これらの難治性咳嗽や感染症の他、呼吸器疾患全般（肺がん、間質性肺炎、睡眠時無呼吸など）を幅広く診療をさせていただいておりますので、患者さんのご紹介をどうぞよろしくお願い申し上げます。



《 倉敷中央病院リバーサイド視察 》

地域連携室長兼副院長 村井 久純

2024年11月8日に倉敷中央病院リバーサイドに行ってまいりました。病床数は130床と多くはないのですが、倉敷中央病院の分院であり多くのシステムが共有されているため、大変有意義な視察となりました。

まず、病院の説明をしていただいた院長の中島尊先生、十河浩史事務長には大変感謝しております。特に熱意をもって語られたこととして病院の理念をしっかりとっておられたことです。“「人と人とのふれあい」を大切に、地域の人々の生命と健康を守る”という理念をかかげておられて、患者様が心地よい病院を目指されていました。

院長が就任されてからは、在宅での診療を希望された患者様には、訪問診療を自ら開始されたとのことで、まさに地域密着型病院であることを実践されていました。我々の病院も共通することが多々あり大変感銘を受けました。

また、特に感心したのが予約システムです。これは倉敷中央病院と同様の方法をとっておられてホームページからの予約が可能となっていました。救急患者などはもちろん電話での予約も可能なのですが、実際、予約システムを導入してからは、電話での割合が減少しほぼWeb予約の割合がほとんどとなり地域連携室業務もスムーズになったとのことでした。倉敷中央病院にも視察にいったのですが、そちらは紹介状も含めすべてペーパーレス化となっており大病院ならではの人員と最新システムを目の当たりにすることができました。当院は、Web画像予約システムが可能となっていますが、最終的には外来の予約システムも導入できるようにしていきたいと考えております。患者様や登録医の先生方に、身近だと感じていただけるような地域連携室を目指していきたいと考えておりますので、ご不便もあるとは思いますが、今後ともよろしくお願いたします。

倉敷中央病院 エントランス



重度心身障害児者がストレッチャーから見た時に、少しでも穏やかな気持ちになれるよう設置されたステンドグラス



十河事務長

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院リバーサイド



※倉敷中央病院リバーサイドホームページより引用

<https://www.kchnet.or.jp/krh>(2025/2/4)

《 新規登録医のご紹介 》

おりた内科クリニックおなかとカメラと糖尿病 金沢院

織田 典明 先生

2024年10月1日、野々市市御経塚に「おりた内科クリニック『おなかとカメラと糖尿病』金沢院」を開院いたしました織田典明です。

2010年に金沢大学を卒業後、金沢大学附属病院消化器内科をはじめ、金沢市立病院、金沢医療センター、富山県立中央病院で勤務し、消化器内視鏡治療を中心に、一般内科や救急医療に携わりながら総合内科医として研鑽を積んでまいりました。特に大学病院では膵臓癌の早期診断に力を入れてきました。膵臓癌は早期発見が難

しい病気ですが、一人でも多くの患者様を救いたいという思いから、エコー検査や超音波内視鏡を用いた膵臓診療が受けやすいクリニックを作りました。ぜひ、膵臓に関するご不安がある患者様がいらっしゃいましたら、いつでもご相談ください。また、野々市駅前の便利な立地を生かし、鎮静剤を使用した苦痛の少ない胃・大腸カメラ検査やポリープ切除手術を積極的に行っています。検査に対する不安をお持ちの方にも、安心して受けていただけるよう努めてまいります。さらに、金沢市立病院で生活習慣病診療を学んだ副院長の織田友希菜とともに、医師2人体制で予防から早期発見・早期治療、さらには終末期まで一貫してサポートできる総合内科クリニックを目指しています。消化器内科の専門診療に加え、管理栄養士と連携した生活習慣病診療にも力を入れ、患者様一人一人に寄り添った丁寧な診療を心掛けていきます。これまで地域の医療機関や専門職の皆様と連携し、訪問診療にも取り組んでまいりました。今後もネットワークの軽い対応で、密な連携を大切にし、『相談しやすい訪問診療クリニック』と思っただけよう、努力していきます。

地域医療に貢献できるように頑張りますので、今後ともよろしく願いいたします。

住 所：〒921-8801

石川県野々市市御経塚1丁目445

T E L：076-227-8110

診療科名：消化器内科、糖尿病内科等

ホームページ：<https://orita-onakaclinic.com>

▲ 訪問診療のみ

■ 09:00-16:00

休診日/日曜・祝日

※おりた内科クリニック おなかとカメラと糖尿病 金沢院ホームページより引用

<https://orita-onakaclinic.com>(2025/1/21)

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
09:00-18:00	●	●	▲	●	●	■	/



第19回 登録医総会 / 医療介護連携の会

【第19回登録医総会】

日時：令和6年11月19日（月）

場所：金沢ニューグランドホテル

発表：「金沢市立病院における男性不妊診療の紹介」

泌尿器科 飯島 将司 医師

「当院の現状とこれから」

～共同機器利用の活用法～

石田病院 石田 晃介 先生



第19回 金沢市立病院 登録医総会を開催いたしました。登録医の先生方には、34名のご出席をいただきました。総会の後は、情報交換会を開催し、アルコールと軽食を囲みながら和気あいあいと歓談の時間を過ごしていただきました。登録医の先生方からのご意見で改めて気づくこともあり、直接顔を見て意見をいただける貴重な機会となりました。今後は、登録医の看護師さんはじめ多くのスタッフの方々にも参加していただき、気軽に意見交換できる風通しの良い関係を築ける機会となるよう努力していきたいと思っております。お忙しい中、ご講演くださった石田先生には心から感謝申し上げます。

また、ご出席いただいた登録医の先生方、本当にありがとうございました。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

【医療介護連携の会】

日時：令和6年12月10日（金）

場所：金沢市立病院

発表：「高齢者施設での感染対策について」

感染管理認定看護師 奥野 由美 看護師

「医療介護連携の当院の取り組み」

～情報ネットワーク化を目指して～

副院長兼地域連携室長 村井 久純 医師

事務局 中宮 英範 次長



金沢市内の介護老人福祉施設などを運営する社会福祉法人の職員の皆様にご参加いただきました。アウトブレイクしやすい感染症や標準的予防策など、具体的にお話しさせていただき、職員の皆様から好評を得ました。情報ネットワーク化では、村井地域連携室長と中宮事務局次長より、心不全地域連携パスやIDリンク、試行中の地域医療情報連携システムについてお話ししました。さまざまな業界でDXの必要性が叫ばれる昨今ですが、今もっとも変革が必要な業界の1つに医療・介護業界が挙げられます。今後も皆様との意見交換を通し、DX化を進めていきたいと存じますので、お力添えのほど、どうぞよろしくお願いいたします。

地域連携室 社会福祉士 門谷 美里